

青空のもとで

<今月の聖句> 「しかし、成長させてくださったのは神です。」
(コリントの信徒への手紙第一 3勝6節)

すっぱり一面を覆っていた寒冷紗がようやくはずされた。
ぬけるような空の青と茶色い地面が5か月ぶりに対面を果たした。
天から注ぐ明るい光に、土も草も遊具の丸太もまだ少し恥ずかしそう。
でも、つくしの子どもたちには、やはり、青空がよく似合う。
ぱっと開けた空間を、手に手をとって心からうれしそうに駆け巡る
その表情は、安心と自信がさらに増し、心から今を楽しんでいる。

楽しい秋がもうはじまっている。
先月初旬、年長の子どもたちに梅小路公園に連れて行ってもらった。
自分たちの足で電車を乗り継いでいくのだと言う。駅まで手をつなぎ
「ここ毎日通るんだ」「この池に大きな魚がいるんだよ」。
道中ずっといろいろな話を聞かせてくれる。こちらは歩くのに懸命。
券売機では自分たちで切符を買う。後ろに待っていた人がいたので
「どうぞ、お先に」といって見上げると、若くて背の高い外国の観光客。
一人の子が一瞬固って彼の顔を見つめていると、彼は気さくに
「私のひげを見てるの？ かっこいいでしょ」と声をかけてくれた。
バイバイと言って別れた後、「じゃあ僕が切符通すね」とホームへ。
電車内ではさすが年長、そのまま座らず目的地に到着。
公園の森の中を散策していると、近くの人らしいおじさんが
「もうすぐここを機関車が通るよ」と、教えてくれた。
「え、まさかこんな森の中を？」。ためしにしばらく待っていると
木々のむこうから聞こえてきた。シュッ、シュッ、シュッ、シュッ…。
だんだん大きくなってきた。ポオウー！ ほんとに現れた。
けたたましい汽笛と共に目の前3メートルを颯爽と通り過ぎて行った。
聞けば隣の鉄道博物館の動態展示だそう。
いろいろな人と出会い、ハプニングを楽しみ、最後はアスレチックを満喫。
さすがに疲れて、帰りの地下鉄は肩寄せ合い座って帰園したけれど
自分たちの足で歩き通し、やりとげた達成感を
楽しかったね、楽しかったねと、互いに声かけあいながら味わっていた。
(つくし保育園園長 つだかずお)

<こどもとおとなの日曜礼拝>
毎日曜あさ10時30分～ 醍醐教会(お庭のチャペル)
どうぞご家族と一緒にお気軽にお越しください。
楽しい聖書のお話、懐かしい讃美歌